

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2020/21 年度

生産量 前年度比  前月比 **—**

・EU、米国等で減少も、豪州、ロシア等で増加し、前年度から増加。史上最高の見込み。

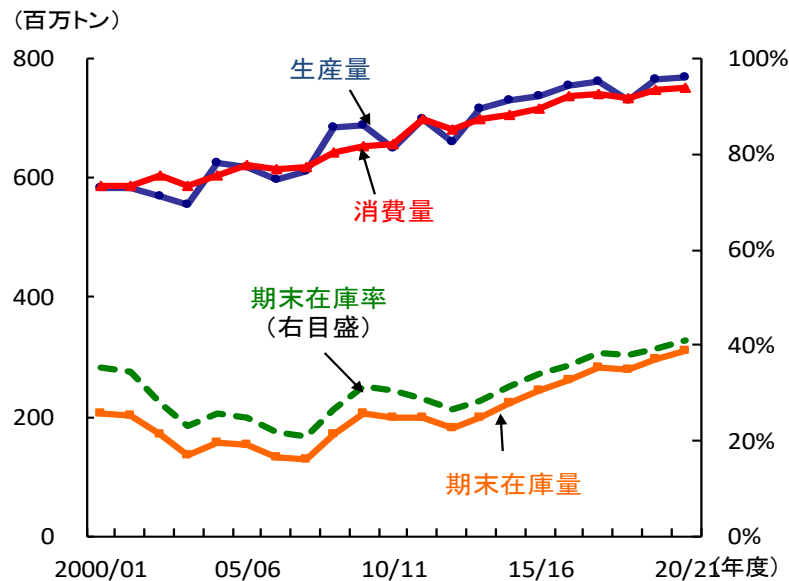
消費量 前年度比  前月比 **—**

・EU 等で減少も、中国等で増加し、前年度から増加。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比  前月比 **—**

・EU 等で減少も、豪州等で増加し、前年度から増加。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比  前月比 **—**



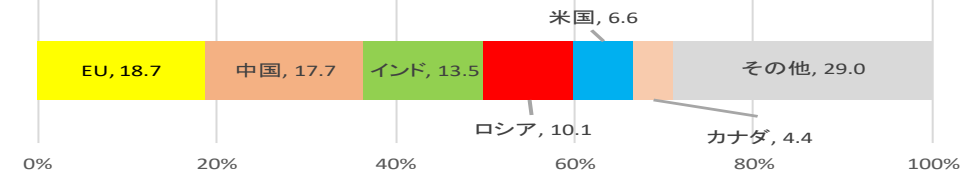
◎世界の小麦需給

(単位：百万トン)

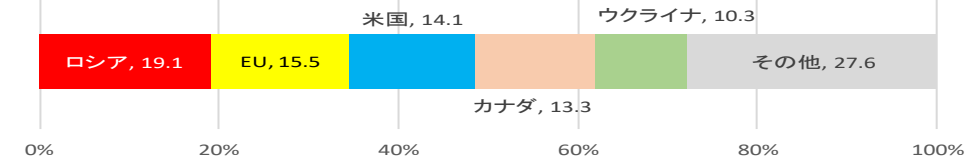
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	730.5	764.3	768.5	—	0.5
消費量	735.2	748.6	753.5	—	0.7
うち飼料用	139.5	143.4	137.5	—	▲ 4.1
輸出量	173.6	183.4	188.0	—	2.5
輸入量	170.6	179.8	182.8	—	1.7
期末在庫量	279.4	295.1	310.1	—	5.1
期末在庫率	38.0%	39.4%	41.2%	—	1.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (12 May 2020)

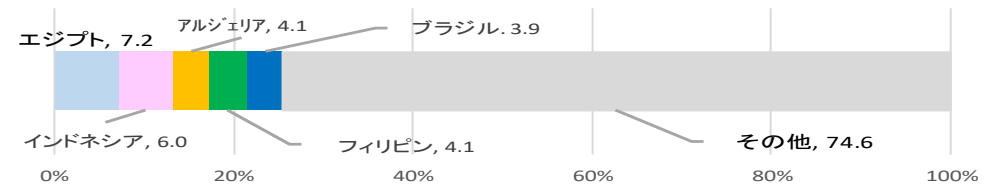
○ 2020/21年度の世界の小麦の生産量(768.5百万トン) (単位：%)



○ 2020/21年度の世界の小麦の輸出量(188.0百万トン)



○ 2020/21年度の世界の小麦の輸入量(182.8百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

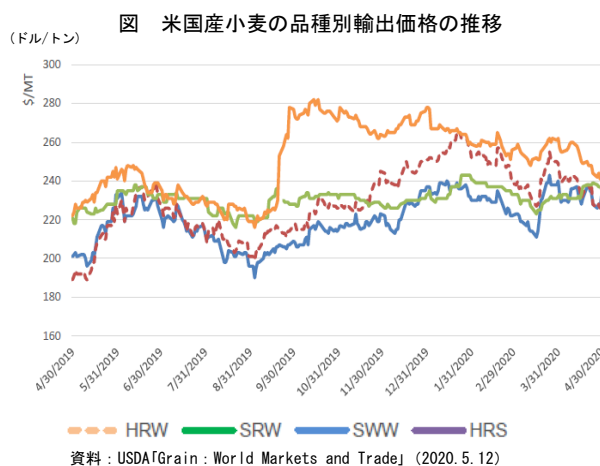
【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2020/21年度の生産量は、前年度より1.5百万トン減少の50.8百万トンの見込み。そのうち、冬小麦の生産量は、作付面積が1909年以来最低の12.5百万ヘクタールとなり、34.1百万トン(対前年度比3.9%減)。

USDA「Crop Progress」(2020.5.18)によれば、5月17日時点の冬小麦の出穂進捗率(主要生産18州)は56ポイントと、前年度同期(51ポイント)を上回るものの、5年平均(62ポイント)を下回っている。作柄評価は、良～やや良が52ポイントと、前週の53ポイント、前年同期の66ポイントを下回っている。

春小麦は、作付け進捗率が60ポイントと前年同期の63ポイント、5年平均の80ポイントを下回り、発芽進捗率は、30ポイントで5年平均の46ポイントを下回っている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、飼料用需要は、米国産とうもろこしの豊作予測や小麦価格が相対的にとうもろこしに比べが高いことから、飼料需要が代替され前年度より1.0百万トン減少する見込み。

4月の小麦輸出価格は、アジア諸国からの需要で上昇したソフトホワイトウインター



(SWW)除き下落した。ハードレッドウインター(HRW)等は、輸出ペースが市場予測を下回ったことや、他の輸出主要輸出国の豊作見通しから下落。

2020年(2020.1～2020.5.7)の輸出先国別輸出数量は、メキシコが最も多く117万トンで、フィリピン(109万トン)、日本(97万トン)の順。日本向け輸出量は、2020年1月から4月まで20万トン台で推移している。

小麦－米国

(冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	51.3	52.3	50.8	—	▲ 2.8
消費量	30.0	31.5	30.6	—	▲ 2.8
うち飼料用	2.4	3.7	2.7	—	▲ 25.9
輸 出 量	25.5	26.4	25.9	—	▲ 2.0
輸 入 量	3.7	2.9	3.8	—	33.2
期末在庫量	29.4	26.6	24.7	—	▲ 7.0
期末在庫率	53.0%	46.0%	43.8%	—	▲ 2.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.03	15.04	15.24	—	1.3
単収(t/ha)	3.20	3.47	3.33	—	▲ 4.0

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 May 2020)

表 日本向け小麦輸出検証高の推移 (万トン)

	1月	2月	3月	4月	計
2020年	28.2	23.7	23.9	21.6	97.3
2019年	26.7	23.0	19.5	18.8	88.0

資料: USDA「Export Sales Query」

表 米国の小麦輸出先国別輸出量 (輸出検証高) (万トン)

順位	国名	2020年4月(※)	シェア(%)	2020年累計 (2020.1～2020.5.7)	シェア(%)
1	メキシコ	27.0	13.9	116.7	13.6
2	フィリピン	25.8	13.3	108.9	12.7
3	日本	21.6	11.1	97.3	11.4
4	韓国	15.0	7.7	49.7	5.8
5	イタリア	12.4	6.4	21.3	2.5
6	タイ	11.6	6.0	34.4	4.0
7	その他	80.7	41.6	426.8	49.9
	計	194.1	100.0	855.1	100.0

資料: USDA「Export Sales Query」(2020.5.14)

(※)4月の輸出成約高は、4月9、16、23、30日、5月7日の合計値

< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)5月報告(2020.5.22)によれば、2020/21年度の生産量は、前年度に比べ4.8%増加して33.9百万トンの見込み。このうち、デュラム小麦は、前年度より11%増加の5.5百万トン、普通小麦は前年度に比べ4%の増加の28.4百万トン。デュラム小麦は期首在庫量が少ないことや比較的価格が高いこと等から作付面積が増加。一方、普通小麦の作付面積は、冬小麦が17%増加、春小麦もわずかに増加するため、前年度に比べ1%増加する見込み。

なお、普通小麦の生産量予測の内訳は、前年度に比べ、冬小麦が65%増加し2.8百万トン、春小麦はわずかに減少して25.6百万トンの見込み。

USDAによれば、5月上旬の作付状況は、低い土壌温度や地域的な豪雨等により限定的となっている。平原三州の各州政府によれば、5月上旬の作付状況は、サスカチュワン州でデュラム小麦が10%、春小麦が4%の作付け進捗率、マニトバ州で春小麦の作付けが開始、アルバータ州で作物全体作付け進捗率は9%と、各州とも土壌水分過多等から前年度に比べ遅れている。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、2020/21年度の輸出量は前年に比べ、5.2%増加して、24.1百万トンの見込み。デュラム小麦は期首在庫量が減少したものの、前年度並みの4.9百万トン、普通小麦は、生産量の増加等から前年度に比べ、7%増加して19.2百万トンの見込み。

また、USDAによれば、輸出価格は、4月末のカナディアン・ウェスタン・レッド・スプリング(CWRS)が2020/21年度の前年度生産量の増加予測と輸送問題が解消に向かっていることより3月末の240ドル/トンから下落し、米国産ハードレッドウインター(HRW:232ドル/トン)を下回る230ドル/トンとなった。このため、米国産とカナダ産はラテンアメリカやアジア市場で競合するとみられている。カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2019/20年度の前年度普通小麦の輸出量累計は3月末現在、10.2百万トンで、インドネシアが1.3百万トンと一位を占めている。

小麦－カナダ

(春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	32.2	32.4	34.0 (33.9)	—	5.1	
消 費 量	9.0	10.4	9.8 (9.1)	—	▲ 5.8	
うち飼料用	4.0	5.3	4.6 (4.4)	—	▲ 13.2	
輸 出 量	24.4	23.0	24.5 (24.1)	—	6.5	
輸 入 量	0.5	0.6	0.5 (0.2)	—	▲ 18.2	
期末在庫量	6.0	5.5	5.7 (6.8)	—	2.7	
期末在庫率	18.1%	16.6%	16.6% (20.5%)	—	0.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.88	9.66	9.80 (10.08)	—	1.4	
単収(t/ha)	3.26	3.35	3.47 (3.36)	—	3.6	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2020)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(22 May 2020)

表 カナダの普通小麦の輸出先国別輸出量

単位:1,000メトリックトン

国名	3月の輸出検証高	2019/20年度の 輸出検証高
インドネシア	257.7	1,291.4
日本	153.6	1,242.1
ペルー	144.1	667.6
メキシコ	129.1	582.9
中国	113.4	526.2
韓国	74.2	175.6
コロンビア	60.5	745.8
タイ	57.8	173.7
バングラデシュ	56.9	859.2
イギリス	50.1	272.3
その他	232.9	3,666.9
合計	1,330.3	10,203.7

注1: Canadian Grain Commissionが認可したエレベーターから輸出された小麦(Licensed)のみのデータ。
注2: 品種はNo.1-3 Canada Western Red Spring、No.2 Canada Prairie Spring、No.1 Canada Western Red Winter、No.2 Canada Eastern、Other(特別仕様、グレードを組み合わせたもの)
注3: 累計輸出検証高は2019年8月～2020年3月の累計輸出量。

資料: Canadian Grain Commission 「Exports of Canadian Grain and Wheat Flour」(2020年4月29日)より作成。

<豪州>

【生育・生産状況】USDAによれば、4月、豪州の南東部で平年を上回る降雨で冬作穀物の作付け前の土壌水分が補充され、小麦の播種が開始された。豪州東部のクイーンズランド州南部では、乾燥天候により小麦の発芽が影響を受けた。豪州西部の西オーストラリア州でも、平年より乾燥した天候となり、播種前に十分な降雨を待つ生産者もいたが、5月上旬に降雨が見込まれるため播種が進んだ。豪州気象局によれば、西オーストラリア州南部では6月から8月にかけて例年並みかそれ以上の降雨に恵まれる見込み。

2020/21年度の生産量予測は、収穫面積の増加と単収の上昇により、2007/08年度以来12年ぶりの低水準となった前年度の15.2百万トンから増加し、24.0百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、飼料用需要は、飼料用途として的大麦やソルガムの増加、牧草の生育状況の回復から前年度に比べ1.2百万トンの減少の見込み。

輸出量は、豪州の生産量の4年ぶりの回復や、飼料用途の大麦や牧草等の消費増加で、小麦の輸出余力が増加するため、前年度より6.8百万トン増加し、15.0百万トンの見込みで、豪州はインドネシア等の東南アジア市場を取り戻すと見られる。

写真：西豪州での作付け(2020.5.2)



4月末の輸出価格は、3月末の277ドル/トンから、季節的な供給の逼迫により1年ぶりに288ドル/トンに上昇した。

なお、豪州では、西部の大部分の小麦が輸出され、東部の小麦は国内用に製粉され消費される。

小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

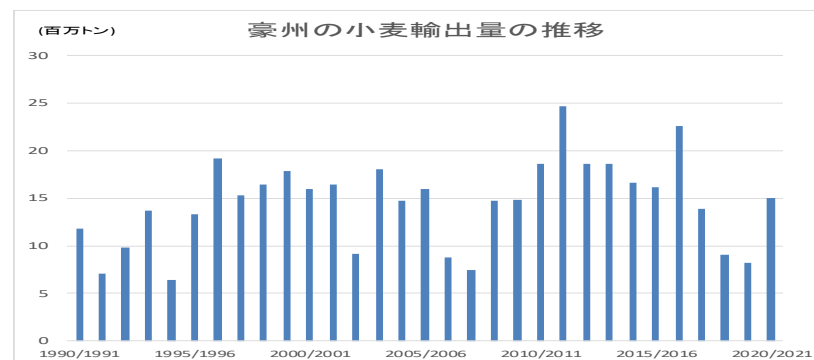
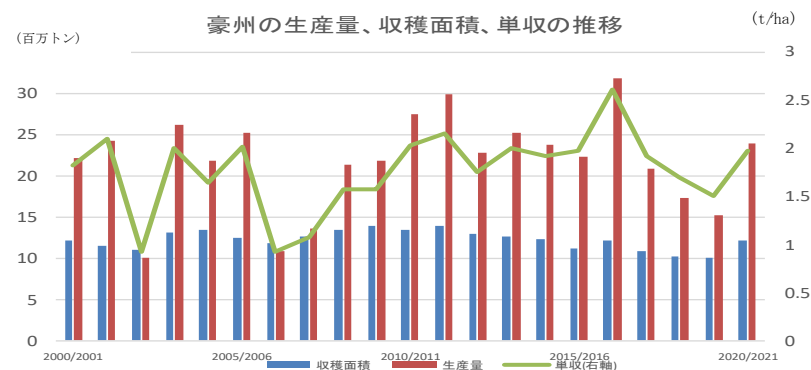
(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	17.3	15.2	24.0 (24.0)	—	57.9
消 費 量	9.2	8.7	7.6 (8.6)	—	▲ 13.2
うち飼料用	5.7	5.2	4.0 (5.0)	—	▲ 23.1
輸 出 量	9.0	8.2	15.0 (13.0)	—	82.9
輸 入 量	0.4	0.5	0.2 (0.3)	—	▲ 55.6
期末在庫量	5.0	3.7	5.4 (6.4)	—	44.5
期末在庫率	27.2%	22.0%	23.8% (29.8%)	—	1.8

(参考)

収穫面積(百万ha)※	10.16	10.10	12.10 (12.63)	—	19.8
単収(t/ha)	1.70	1.50	1.98 (1.90)	—	32.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2020)
IGC 「Grain Market Report」(30 April 2020)



< EU > (英国を含む)

【生育・生産状況】USDAによれば、4月、英国、ドイツ、ポーランド、北部イタリア、バルカン諸国で乾燥天候となった。また、中央、西部ヨーロッパの生産地では平年を上回る気温で、平年より2週間程度早く生殖生長期に向け生育が進んだ。5月の始め、欧州の広範囲で降雨に恵まれ、多くの地域では単収の上昇に繋がる適切な土壌水分となったが、英国、デンマーク、ドイツでは小雨に留まったため、今後の生育には更なる降雨が必要とされている。また、スペインでは降雨により、引き続いていた乾燥は和らぎ、生殖生長期に向けた小麦の単収が上昇する見込み。

EU委員会によれば、5月上旬現在、スペイン南部、フランス南部等では例年より早く登熟期を迎え、フランス北東部、スペイン中部ではすでに開花期を迎えている。

フランスアグリメールによれば、フランスの普通小麦の作柄は、「良い」から「とても良い」が57%と前年度の79%を下回っている。また、デュラム小麦の作柄も、「良い」から「とても良い」が65%と前年度の70%を下回っている。

USDAによれば、2020/21年度の生産量は、英国、フランス、ドイツ等で収穫面積が大きく減少したことや単収の低下見込みから、前年度(154.8百万トン)から11.8百万トン減少し、143.0百万トンとなる見込み。フランスでは、作付期の豪雨や土壌水分過多の影響で、2001/02年度以来最小の収穫面積となった。

【貿易情報・その他】USDAによれば、小麦の飼料用需要は、生産量の減少や、とうもろこしに比べて価格が高いことに加え、隣国のウクライナでとうもろこしが豊富に供給されること等から前年に比べ3.0百万トン減少し、50.5百万トンとなる見込み。

2020/21年度の輸出量は、生産量が減少し価格競争力が低下するため、前年度に比べ6.5百万トン減少し、28.5百万トンとなる見込み。

なお、4月末の輸出価格は、3月末の223ドル/トンから下落し、220ドル/トンとなり、ロシア(227ドル/トン)との価格競争力が上昇した。

小麦—EU

(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はEU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	136.7	154.8	143.0 (133.4)	—	▲ 7.6
消 費 量	121.1	123.0	120.3 (107.7)	—	▲ 2.2
うち飼料用	51.5	53.0	50.5 (43.4)	—	▲ 4.7
輸 出 量	23.3	35.0	28.5 (29.2)	—	▲ 18.6
輸 入 量	5.8	4.6	5.5 (5.9)	—	19.6
期末在庫量	12.0	13.4	13.1 (14.5)	—	▲ 2.2
期末在庫率	8.3%	8.4%	8.8% (10.6%)	—	0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	25.52	26.08	25.25 (23.63)	—	▲ 3.2
単収(t/ha)	5.36	5.94	5.66 (5.64)	—	▲ 4.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
USDA 「PS&D」 (12 May 2020)
EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」 (30 April 2020)
なお、EU委員会のデータはEU27ヶ国で英国を除く、USDAは英国を含む。

2020/21年度EU(27ヶ国)の普通小麦の生産量、作付面積

	作付面積	前年度差	生産量	前年度差
フランス	4,626	-370.8	34,139.9	-5435.4
ドイツ	2,900	-186.5	22,418.6	-489.4
ポーランド	2,482	-7.7	11,690.6	766.5
ルーマニア	2,135	50.2	11,024.0	1028.6
ブルガリア	1,120	-66.0	5,521.6	-578.4
スペイン	1,656	2.6	5,466.4	358.7
ハンガリー	1,008	28.5	5,088.0	-116.1
その他	5,510	15.6	31,416.5	-559.0
合 計	21,436	-534.1	126,765.5	-5024.4

作付面積は千ヘクタール、生産量は千トン

資料: 欧州委員会 EU Crops Market Observatoryをもとに農林水産省で作成

< 中国 >

【生育・生産状況】国家糧油情報センターによれば、冬小麦生産地の河北省、山東省等では降雨があり土壌水分量が補充され、気温も平年並みであった。また、江蘇省、湖北省等では、気温も上昇し日照も十分に良好な天候であった。

春小麦生産地の黒竜江省では一部で降雨が 2 割から 8 割多くなった。

2020/21 年度の冬小麦の生育状況は、河北省、山東省等では、多くが開花期に入っており、一部は乳熟期を迎えている。甘粛省、寧夏省では節間伸長期から出穂期、四川省、雲南省では乳熟期から成熟期となっている。

中国気象台によれば、冬小麦の作柄は、5 月第 1 週の全国の冬小麦の一類、二類苗(※)の比率がそれぞれ 25%と 74%と、前年同期(22%、73%)に比べ、一類苗が 3 ポイント、二類苗が 1 ポイントそれぞれ上昇している。

春小麦は、黒竜江省等で大部分が播種期に入り、甘粛省等では三葉期から分けつ期、一部は節間伸長期を迎えている。

中国糧油情報センターによれば、2020/21 年度の小麦の生産量は、前年度に比べ、0.3%増加の 134.0 百万トンの見込み。種類別の内訳は、冬小麦は作付面積が減少したものの、単収が上昇したこと、前年度に比べ 0.02%増加の 126.6 百万トン、春小麦は作付面積が増加し、単収も上昇することから、昨年度に比べ 5.5%増加し、7.4 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】中国農産品供需形勢分析月報(4 月)によれば、世界的な新型コロナウイルスの流行による多くの国の輸出制限が引き起こした国内のパニック性の買いだめに加え、事業所や学校の再開需要を見込み製粉企業が積極的に買い入れたため、小麦価格は上昇。このため、4 月 15 日以降、国の政策在庫小麦を毎週 400 万トン以上競売により、普通小麦の供給の逼迫状況が緩和された。2020 年 1 月から 3 月の小麦輸入量計は、前年同期から 23.1%増加の 127 万トン。輸入先国のシェアは、2019 年同期はカナダが 70.5%を占めていたが、2020 年同期は豪州が 39.5%、フランスが 29.5%となっている。

小麦—中国（冬小麦を主に栽培）

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	131.4	133.6	135.0 (134.0)	—	1.1
消費量	125.0	126.0	130.0 (131.9)	—	3.2
うち飼料用	20.0	19.0	20.0 (22.0)	—	5.3
輸 出 量	1.0	1.0	1.0 (1.2)	—	—
輸 入 量	3.2	4.0	6.0 (3.7)	—	50.0
期末在庫量	139.8	150.4	160.4 (133.6)	—	6.7
期末在庫率	110.9%	118.4%	122.4% (100.4%)	—	4.0

(参考)

収穫面積(百万ha)	24.27	23.73	24.00 (23.75)	—	1.1
単収(t/ha)	5.42	5.63	5.63 (5.64)	—	—

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

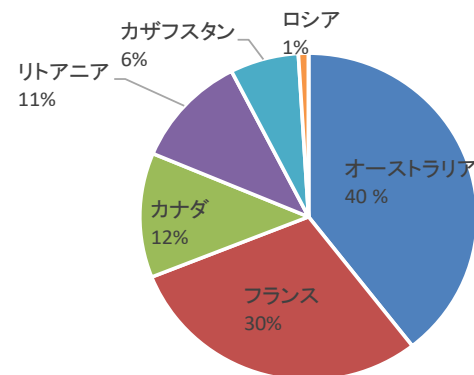
「World Agricultural Production」(12 May 2020)

IGC 「Grain Market Report」(30 April 2020)

※ 一類苗: 生育が正常な苗 二類苗: 通常の苗よりやや小さい苗

三類苗: 病気の苗、弱い苗

図 2020 年 1 月から 3 月までの小麦輸入先国のシェア



資料: 中国海関統計をもとに農林水産省で作成。

< ロシア >

【生育・生産状況】USDAによれば、冬小麦は、乾燥天候であった昨年の秋に作付けが行われた。特に南連邦管区、北カフカス連邦管区では春も乾燥した天候となったが、低温で生育が遅れたため、5月に十分な降雨があれば改善される見込み。

ロシア気象センターによれば、中央、北西、沿ボルガ連邦管区(※)で冬小麦の一部が茎立期に入り、春小麦の発芽が開始。生育状況は、一部で低温の影響があるものの、概ね良好。南及び北カフカス連邦管区で冬小麦が概ね茎立期、春小麦の一部が子葉形成期で、生育状況は土壌水分不足の影響があるものの、概ね並。また、ウラル、シベリア連邦管区では、温暖な天候で昨年度より早いペースで春小麦の作付けが進み、生育は土壌水分量が適量なため概ね良好である。

USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前年に比べ、4.6%増加の77.0百万トンの見込み。生産量の内訳は、冬小麦は、前年度に比べ8.5%増加の57.0百万トン、春小麦は、同5.1%減の20.0百万トン。

なお、ロシア政府は5月20日、クラスノダル地方等(南連邦管区)で冬穀物の単収が最大30%下がる可能性から、2020/21年度の穀物の生産量予測を123百万トンから120百万トンに下方修正した。

【貿易情報・その他】ロシア政府は、4月1日から輸出枠を適用したが、4月26日に、6月までの同経済同盟以外への輸出枠分は全て発給済みとなり、ロシア税関はこれ以上の輸出申告は受けない旨発表した。現地情報によれば、既に申告された輸出が5月下旬～6月上旬まで続く見込み。

この輸出枠の設定により、4月末の輸出価格は、3月末の224ドル/トンからわずかに上昇して227ドル/トンとなった。ロシアの2019年(2019.7～2020.3)の輸出先国のシェアは、トルコが25%、エジプトが21%、バングラデシュが8%等である。

なお、財務省貿易統計によれば、2019年の日本のロシアからの小麦輸入は年間約5万トンで全て飼料用であり、ロシアからの輸入量は全輸入量の1%程度である。

小麦－ロシア

(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	71.7	73.6	77.0	(79.0)	—	4.6
消 費 量	40.5	40.0	40.5	(41.2)	—	1.3
うち飼料用	18.0	17.0	17.5	(18.2)	—	2.9
輸 出 量	35.8	33.5	35.0	(37.4)	—	4.5
輸 入 量	0.5	0.4	0.5	(0.3)	—	42.9
期末在庫量	7.8	8.3	10.3	(11.2)	—	24.2
期末在庫率	10.2%	11.3%	13.6%	(14.3%)	—	2.4
(参考)						
収穫面積(百万ha)	26.34	27.31	27.50	(27.90)	—	0.7
単収(t/ha)	2.72	2.70	2.80	(2.83)	—	3.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2020)
IGC 「Grain Market Report」(30 April 2020)

表 ロシアの小麦輸出相手国(シェア)

	2020年1月		2019年7月～2020年3月	
	国名	輸出量シェア (%)	国名	輸出量シェア (%)
1	トルコ	35	トルコ	25
2	エジプト	21	エジプト	21
3	U A E	6	バングラデシュ	8
4	ベトナム	5	セルビア	4
5	タンザニア	4	スーダン	4
6	その他	29	その他	38
計		100%		100%

資料：ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成

※ ロシアヨーロッパ部：中央、北西、沿ボルガ、南、北カフカス連邦管区

ロシアアジア部：ウラル、シベリア、極東連邦管区

2 とうもろこし

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し> 2020/21 年度

生産量 前年度比  前月比 **—**

- ・南アフリカ等で減少も、米国、ブラジル、ウクライナ等で増加し、前年度を上回る見込み。

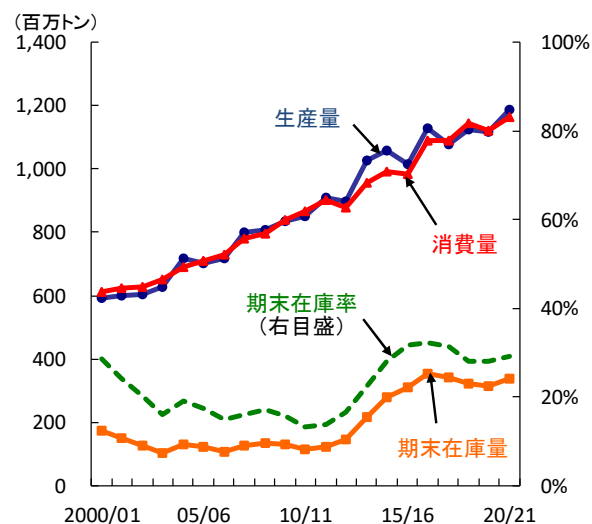
消費量 前年度比  前月比 **—**

- ・米国、中国、EU等で増加し、前年度を上回る見込み。

輸出量 前年度比  前月比 **—**

- ・米国、ブラジル等で増加し、前年度を上回る見込み。

期末在庫量 前年度比  前月比 **—**



資料: USDA 「PS&D」 (2020. 5. 12) をもとに農林水産省にて作成

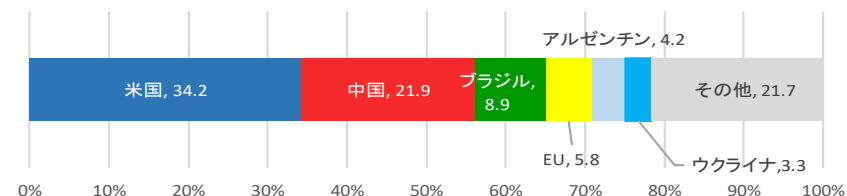
◎世界のとうもろこし需給

(単位: 百万トン)

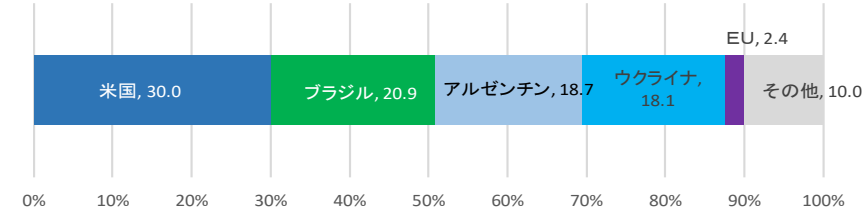
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	1,123.4	1,114.8	1,186.9	—	6.5
消費量	1,143.8	1,121.0	1,162.0	—	3.7
うち飼料用	702.4	704.5	729.0	—	3.5
輸出量	180.9	169.3	182.3	—	7.6
輸入量	163.0	168.8	176.2	—	4.4
期末在庫量	320.9	314.7	339.6	—	7.9
期末在庫率	28.1%	28.1%	29.2%	—	1.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (12 May 2020)

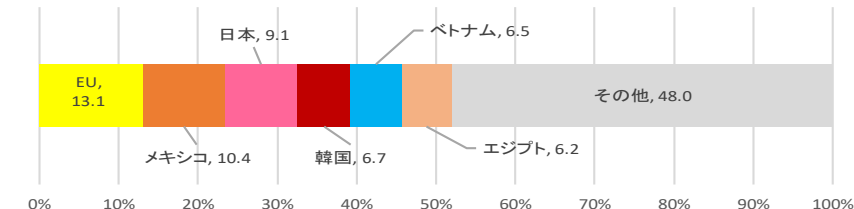
○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの生産量 (1,186.9 百万トン) (単位: %)



○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの輸出量 (182.3 百万トン)



○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの輸入量 (176.2 百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

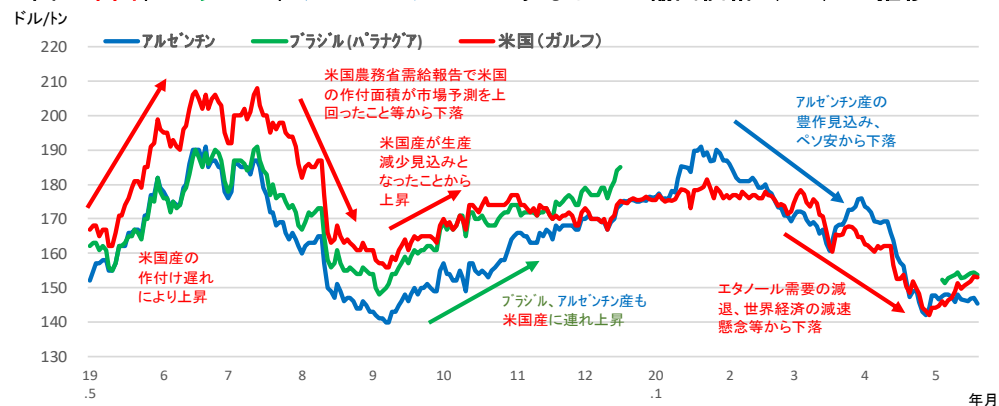
【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2020/21 年度の生産量は、収穫面積の増加により前年度より 17.1%増の 406.3 百万トンとなり、史上最高の見込み。「Crop Progress」（2020.5.18）によれば、天候におおむね恵まれたことから 5 月 17 日現在で作付け進捗率は主要 18 州において 80%と、前年同期（44%）及び過去 5 年平均（71%）より進んでいる。また、発芽率も 43%と、前年同期（16%）及び過去 5 年平均（40%）より進んでいる。

【需要動向】USDA によれば、2020/21 年度の消費量は、前年度の新型コロナウイルスの感染拡大による需要落ち込みの反動から飼料用需要及びエタノール用需要ともに増加し、前年度より 4.9%増の 321.3 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、国際貿易の回復と高い価格競争力のため前年度より 21.1%増の 54.6 百万トンの見込み。なお、輸出検証高（2020 年 1 月 2 日～5 月 7 日）は、16.5 百万トンであり、内訳はメキシコ（5.1 百万トン）、日本（4.2 百万トン）の順である。

直近の輸出価格は、エタノール需要の減退、世界経済の減速懸念等から下落していたが、5 月以降原油価格の復調等によりやや持ち直している。

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

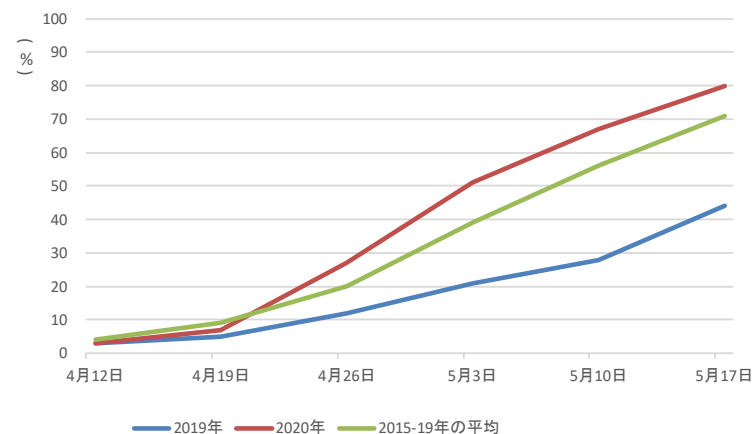
とうもろこし－米国

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	364.3	347.1	406.3	—	17.1
消 費 量	310.5	306.2	321.3	—	4.9
うち飼料用	137.9	144.8	153.7	—	6.1
エタノール用等	136.6	125.7	132.1	—	5.1
輸 出 量	52.5	45.1	54.6	—	21.1
輸 入 量	0.7	1.1	0.6	—	▲ 43.9
期末在庫量	56.4	53.3	84.3	—	58.1
期末在庫率	15.5%	15.2%	22.4%	—	7.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	32.89	32.95	36.26	—	10.0
単収(t/ha)	11.07	10.53	11.20	—	6.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2020)

図：主要 18 州における作付け進捗率の推移



資料：USDA 「Crop Progress」

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、収穫面積の増加により前年度より5.0%増の106.0百万トンの見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(Conab)月例報告(2020.5.12)によれば、2019/20年度の収穫終盤の夏とうもろこしの生産量は、作付面積は増加したものの、南部のリオグランデドスル州の乾燥による単収の低下により、前年度比1.5%減の25.3百万トンの見込み。一方、大豆収穫後に作付けされる冬とうもろこしの生産量は、作付面積の増加により前年度より3.6%増の77.1百万トンが見込まれ、合計では102.3百万トンと前年度(100.0百万トン)を上回る見込み。(P.18大豆—ブラジルのクロップカレンダー参照)。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、飼料用消費増加に伴い前年度より1.5%増の68.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前年度より5.6%増の38.0百万トンの見込み。輸出シェアは世界第2位を維持。(図参照)。一方、輸入量は1.5百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によると、2020年1～4月の累計輸出量は3.0百万トンで、前年同期比54%減となっている。内訳は、1位が台湾80万トン、2位が日本42万トン、3位がイラン33万トンとなっている。

写真：中西部マトグロッソ州の冬とうもろこし
(5月5日撮影)
6月中旬に収穫予定



とうもろこし—ブラジル

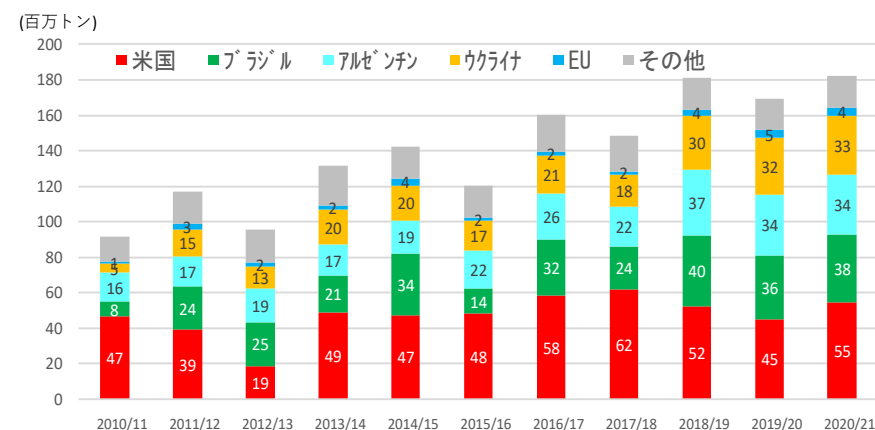
(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	101.0	101.0	106.0 (104.0)	—	5.0	
消 費 量	67.0	67.0	68.0 (70.5)	—	1.5	
うち飼料用	57.0	57.0	58.0 (54.0)	—	1.8	
輸 出 量	39.8	36.0	38.0 (34.5)	—	5.6	
輸 入 量	1.7	1.2	1.5 (0.8)	—	25.0	
期末在庫量	5.2	4.4	5.9 (4.4)	—	34.2	
期末在庫率	4.9%	4.3%	5.6% (4.2%)	—	1.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	17.50	18.20	18.70 (18.10)	—	2.7	
単収(t/ha)	5.77	5.55	5.67 (5.75)	—	2.2	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2020)
IGC「Grain Market Report」(30 April 2020)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2020.5.12)のデータをもとに農林水産省にて作成。

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDA によれば、2020/21 年度の生産量は、前年度と同じ 50.0 百万トンの見込み。

なお、ブエノスアイレス穀物取引所週報(2020.5.21)によれば、収穫率は 43.5%。生産量は 50.0 百万トン(前年度 50.6 百万トン)の見込み。全体的に作柄は良好。主に、ブエノスアイレス州、コルドバ州、ラパンパ州において収穫作業が進んでいる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、前年度と同じ 34.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2020 年 1～3 月の輸出量は 7.0 百万トンで、前年同期より 15%増。内訳は、1 位がベトナム 104 万トン、2 位がペルー 96 万トン、3 位がマレーシア 79 万トン。なお、フェルナンデス新政権は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、とうもろこしの輸出税を約 7%から 12%へ引き上げた。

< 中国 >

【生育・生産状況】中国国家糧油情報センター (2020.5.8) によれば、2020/21 年度の作付けは、4 月以降、各地で開始され、5 月 3 日現在、春とうもろこしの播種は 55.9%で完了。4 月、新疆、河北、山東等の産地ではおおむね天候に恵まれ、播種に有利となった。

【需給状況】USDA によれば、2020/21 年度の消費量は、飼料用需要の回復に伴い、前年度より 1.9%増の 275.0 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】米中通商摩擦の影響から 2018 年 7 月から米国産とうもろこし輸入には 25%の追加関税が賦課されていたが、中国財政部は、2020 年 2 月 18 日、輸入業者向けに追加関税の免除措置の手続きを公表した。

中国の貿易統計によれば、2020 年 1～3 月の輸入量は 125 万トンで、前年同期比で 1.3 倍。内訳は、ウクライナ産 111 万トン (89%) である。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 4 月号」(2020.5.22)によると、新型コロナウイルス肺炎対応の改善と川下の飼料・スターチ需要の回復により、とうもろこし加工業の再稼働率が上がったが、最近の国内市場流通用在庫はタイトであり、4 月の国内流通価格は上昇した。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	51.0	50.0	50.0 (52.1)	—	—
消 費 量	13.8	14.0	15.5 (22.4)	—	10.7
うち飼料用	9.7	10.0	11.0 (17.8)	—	10.0
輸 出 量	37.2	34.0	34.0 (30.0)	—	—
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	—	—
期末在庫量	2.4	4.4	4.9 (3.8)	—	11.7
期末在庫率	4.6%	9.1%	9.9% (7.2%)	—	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.10	6.20	6.20 (6.90)	—	—
単収(t/ha)	8.36	8.06	8.06 (7.55)	—	—

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2020)
IGC 「Grain Market Report」(30 April 2020)

とうもろこしー中国

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	257.3	260.8	260.0 (256.9)	—	▲ 0.3
消 費 量	274.0	270.0	275.0 (288.2)	—	1.9
うち飼料用	191.0	185.0	188.0 (178.0)	—	1.6
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	—	—
輸 入 量	4.5	7.0	7.0 (7.0)	—	—
期末在庫量	210.3	208.1	200.1 (166.0)	—	▲ 3.9
期末在庫率	76.8%	77.1%	72.7% (57.6%)	—	▲ 4.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	42.13	41.28	42.00 (41.10)	—	1.7
単収(t/ha)	6.11	6.32	6.19 (6.25)	—	▲ 2.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2020)
IGC 「Grain Market Report」(30 April 2020)